氷山キヨテルとアイスマウンテンの最新情報やイラストを満載してみた!

ボカロplus

プラス

Vol.0

B.
安土トウマ

Key.
天音ハルト

Vo.
氷山キヨテル

G.
火山アキト

Ds.
帆風ナツキ

設定を公開してみた

ICE MOUNTAIN

アイスマウンテン

キヨテルと4人の仲間たちのプロフィールを公開！

ボカロ先生「氷山キヨテル」は、2009年12月4日にVOCALOID2として発売された音声合成ソフトです。

キヨテルのパッケージ上での設定は、小学校の新人教員ということになっています。そして、休日にはロックバンド「アイスマウンテン」のボーカルとしても活動している……。実はそんな世界観を踏襲した物語の制作がスタートしました。

ノベライズにあたり、アイスマウンテンの他のメンバーや、キヨテルの詳細設定を作ることになりました。

今回この設定資料冊子を制作したのは、この資料をもとにして、みなさんにもっと氷山キヨテルとアイスマウンテンで遊んでいただけたら……と思ったからです。

この資料からアイスマウンテンのイメージを広げ、みなさんの創作で、さまざまなアイスマウンテンを生み出していただければ幸いです。

アイスマウンテンの個性的メンバーが大活躍する物語は初冬の頃にお届けできるように鋭意制作中です。どうぞご期待ください！

アイスマウンテン制作委員会

■ Contents

2 キヨテルと４人の仲間たちのプロフィールを公開！

4 ロックバンド[アイスマウンテン]とは？

6 普段着のメンバー

8 Vo.氷山キヨテル

12 G.火山アキト

16 Ds.帆風ナツキ

20 B.安土トウマ

24 Key.天音ハルト

28 物語をちょっとだけ公開

32 氷山キヨテル イラストギャラリー

ロックバンド[アイスマウンテン]とは？

アイスマウンテンは氷山キヨテルがボーカル「テル」として活躍するロックバンド。ボーカル以外の４人のメンバーを初披露。ステージ衣装はそれぞれが好みのスタイルでキメている。

Vo.
氷山キヨテル（テル）
高音域の声が魅力的なボーカル担当

G.
火山アキト（アキト）
当バンドのリーダー。ギターテクよりノリ優先

B.
安土トウマ（トウマ）
メンバーを精神面で支える兄貴キャラ

UNTAIN

ICE MOUNTAIN BIOGRAPHY ①

　アイスマウンテンは、中学生の火山アキトが音楽に目覚め、親友の氷山キヨテルを誘って、アコースティックギター（アキト）とボーカル（キヨテル）という構成で音楽活動を始めたことが発端。バンドとしての形態になるのは後のことだが、ふたりは中高の６年間、練習と実践（ストリートライブ）に明け暮れることになる。

　その後、キヨテルとアキトは同じ大学に進学。キヨテルは大学で知り合った帆風ナツキをメンバーに誘い、未経験のナツキはアイスマウンテンでドラムを叩くべく練習を始めることになる。ナツキの加入により、アイスマウンテンも少しずつバンドらしくなってゆくのだった。

一部公開されていた情報では、氷山キヨテルがバンドを計画し、火山アキトが賛同した形であったが、今回の小説化に向けて設定の見直しがなされ変更されました。

Key.
天音ハルト（ハルト）
絶対音感を持つ天才
ミュージシャン

Ds.
帆風ナツキ（ナツキ）
小柄ながら全身で叩く
力強いドラムがウリ

ICE MO

普段着のメンバー

ここでは、彼ら５人の普段の姿を御覧いただきましょう。トウマ、キヨテル、ハルトは教員としての出で立ち。アキトとナツキはプライベートのスタイル。

Vo.
氷山キヨテル（テル）

G.
火山アキト（アキト）

B.
安土トウマ（トウマ）

UNTAIN

ICE MOUNTAIN BIOGRAPHY ②

３人となって順調に活動していたアイスマウンテンだが、彼らが大学４年になった春にいったん活動を休止することになる。アキトの父親が体調を崩したため、実家の八百屋を手伝うことになり、バンド活動が困難になったからだった。

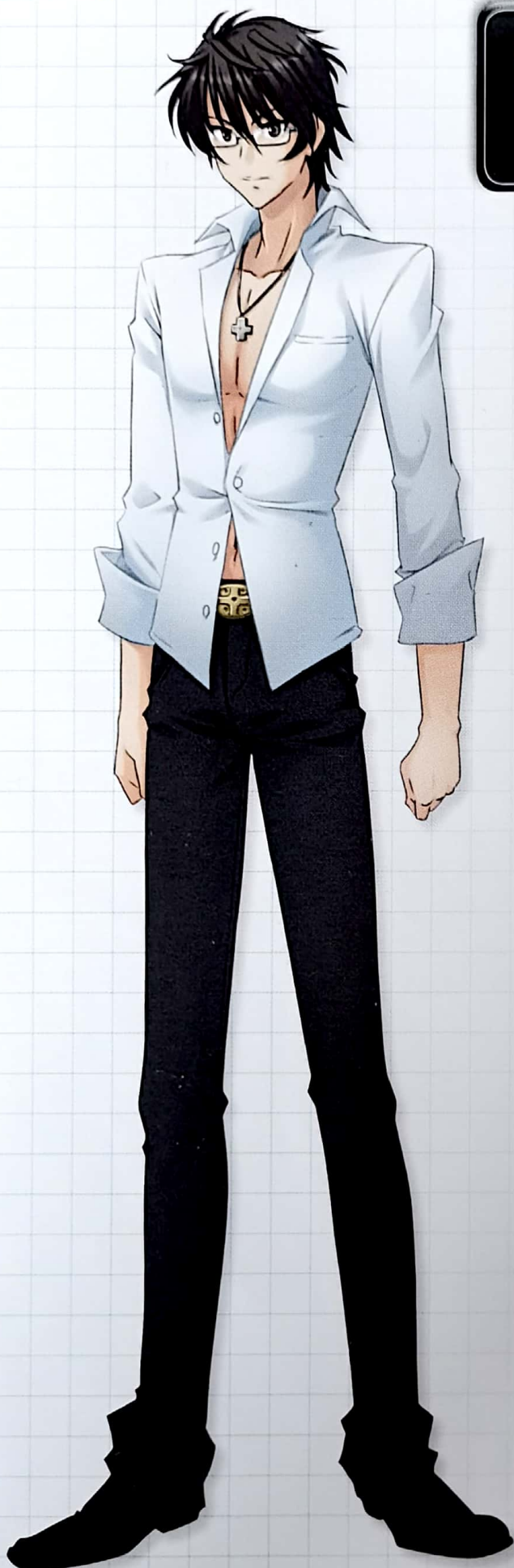
大学卒業後、キヨテルは小学校の教員になり、アキトは実家の八百屋を継ぎ、ナツキはパティシエの道に進んだ。

アイスマウンテンが再始動したのは活動停止から１年後の春。実家の手伝いにも慣れてきたアキトが活動再開をメンバーにもちかけた。キヨテルは勤務先の小学校で出会った先輩教員の安土トウマ（ベース）、天音ハルト（キーボード）を誘い、アイスマウンテンは５人編成のバンドにスケールアップする。

Key.
天音ハルト（ハルト）

Ds.
帆風ナツキ（ナツキ）

テルは中高音の伸びやかな歌声が特徴のロック・ボーカリスト。熱いアップテンポの曲や、迫力のあるシャウトを得意とするが、本人はバラードのような静かな曲も好み。

おなじみ「ボカロ先生」！
アイスマウンテンのボーカル

氷山（ヒヤマ）キヨテル（テル）

PROFILE

所属バンド	アイスマウンテン ボーカル担当
性別	男性
年齢	22
誕生日	12月4日 （本当の誕生日は不明）
身長	176cm
体重	59kg
靴サイズ	27cm

愛用の楽器（マイク）

中学から高校までは、「behringer ULTRAVOIE XM8500」を愛用。大学時代は「SHURE SM58」。社会人になってからは「SHURE BETA58A」と「RODE NT1-A」を使い分けている。

教員　氷山キヨテル

鉢形城南小学校の新人教員。「ほんわか」という言葉が似合う優しい先生。児童に肩入れしてしまう性格で回答用紙の採点に時間がかかる。自ら希望して宿直室に住んでいる。

PROFILE

性格	●真面目で純真、ゆっくりマイペースの草食系。やや優柔不断。 ●他人の意見に左右されやすく、火山アキトのような強引な押しに弱い。 ●常に児童のことを一番に考えている。 ●モッシュやダイブなどの派手なライブパフォーマンスは苦手。 ●女性との交際歴なし。 ●眼鏡を外すと、性格は一変しクールガイに！しかし、強烈な眼精疲労に襲われるため、あまり長時間は眼鏡を外していられない。
趣味	歌うこと

FAMILY

養父	氷山 聖士（きよし）

「幼少時代」

■鉢形城南小学校の近くにある二の丸公園教会の神父に育てられる。

■小学3年生（8～9歳）以前の記憶がない。

■鉢形城南小学校の3年2組に編入。内気でクラスになかなか馴染めない彼を遊び仲間に引き込んだのが火山アキト。それからは、家の近いアキトと毎日遊ぶようになる。

「中学時代」鉢形城南中学校

■相変わらずアキトとつるむ毎日。

■教会で歌う賛美歌から歌うことへの興味がわいてくる。

「高校時代」鉢形城南高等学校

■ストリートライブでオリジナル曲の詞を書きはじめた。

■帰宅途中にアキトの家に寄るのが日課になり、夕飯がカレーの日は必ず食べてから家に帰る。

「大学時代」天翔音響大学

■積極的に友達を作ろうと考えて同じゼミの帆風ナツキに声をかける。

■養父が日曜学校の先生をしていた影響で、自分も人の役に立つ職業に就きたいと漠然と考えはじめる。

「社会人時代」

■母校である鉢形城南小学校の教員に採用される。偶然にも小学校のときに編入した3年2組の担任になる。

■教えるのが好きな科目は算数。

■給料の大部分を教会に寄付してしまうので、いつも貧乏。

■愛用の眼鏡は「Zoff ZS92001A」。養父からのプレゼントなので大切にしている。

■小学校の授業で教えるピアニカなら少し練習したが、他の楽器は演奏できない。

ギター担当のアキトは、知識やテクニックを熱い情熱でカバーする。本人曰く、マイペースなメンバーをまとめるアイスマウンテンの頼れるバンドリーダー。

キヨテルの小学校からの親友
生業は八百屋、担当はギター

G. アキト

火山（ヒヤマ）アキト
（アキト）

PROFILE

所属バンド	アイスマウンテン ギター担当
性別	男性
年齢	22
誕生日	1月1日
身長	179cm
体重	66kg
靴サイズ	28cm

愛用の楽器（ギター）

小学校の卒業式に用務員のおじさんにもらった古いギター。伝説のギタリストのカスタムモデル「Gibson 1959年 ES-355TD Cherry」で、ボディは赤 。しかしアキトは、ただの古くさいギターだと思っている。

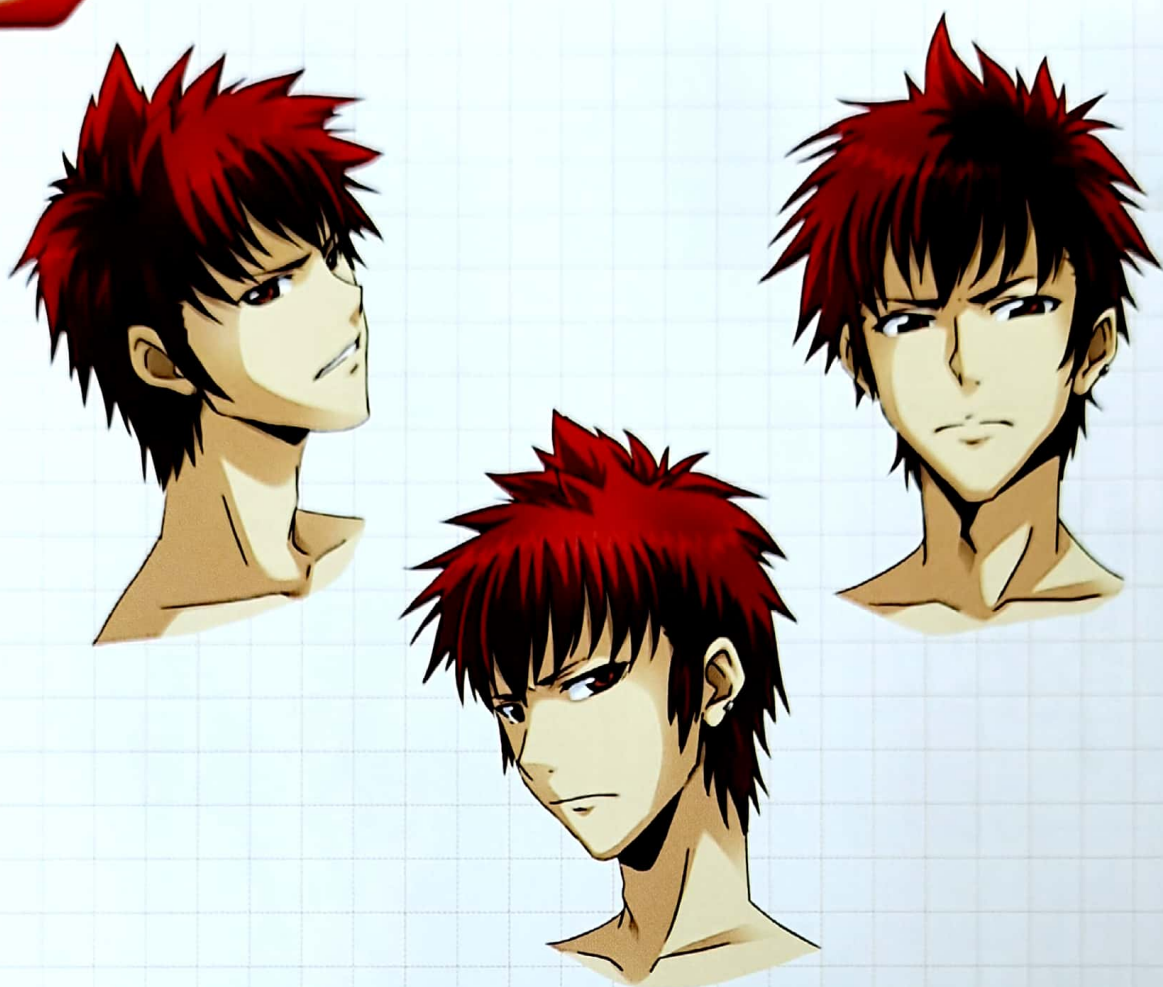
八百屋｜火山アキト

大学時代に父親が持病の腰痛と過労で倒れたことで、家業の八百屋を継ぐことを決意する。悩んだり苦労した頃もあったが、元気だけが取り柄なので、いまでは天職だと思っている。

PROFILE

性格	●周りをぐいぐい引っ張っていく熱い男。 ●他人の話はあまり聞かない。 ●考えるより先に行動するタイプ。 ●人情に厚く、意外と涙もろい面もある。 ●思ったことをすぐ口にしてしまう。 ●女性との交際歴なし。
趣味	ギター キヨテルいじり ナツキいじめ

FAMILY

父	火山八郎太
母	火山妙子
姉	火山彰子
弟	火山竜弘

「幼少時代」

■八百屋の長男として生まれる。ガキ大将。

■6年生のとき「オレはバンドをやる」と周囲に言ってまわる。

■用務員のおじさん相手に、バンドへの熱い情熱を何時間も語る。卒業時に用務員のおじさんから古いギターをもらう。用務員のおじさんが伝説のギタリストだとは知らない。

「中学時代」鉢形城南中学校

■キヨテルを誘い音楽活動を始める。アイスマウンテンというグループ名は「氷山」の「氷」と「火山」の「山」を合せて英語にしようというアキトの提案で決まったが、後に自分の「山」が無意味であることに気がついて落ち込む。

「高校時代」鉢形城南高等学校

■キヨテルと2人でストリートライブを始める。この頃にはギターの腕前も、ちょっとはマシになる。

「大学時代」天翔音響大学

■ナツキを女と勘違いして一目ぼれし、ナンパして酷い目に遭ったため、これ以後ナンパすること自体がトラウマになっている。

■ベースを募集したが、必ずセッション中にトラブルを起こす。

■父が倒れ、八百屋の手伝いに追われることになり、アイスマウンテンの活動が一時休止になる。

「社会人時代」

■大学を卒業した春に、アイスマウンテンの活動再開をキヨテルとナツキに伝える。

■普段は作詞を行わないアキトだが、仕事中に閃いた野菜と果物をテーマにした詞を書き上げて、メンバーに提案するが全員に却下される。

■実家の八百屋に毎日大量のネギを買いに来るツインテールの女の子のことがちょっと気になっている。

ドラム歴は短いが持前の根性から短期間でマスターした。小さい体からは想像もつかない力強いプレイが特徴。ドラムセットの代わりにバケツやタイヤで練習をしている。

キヨテルと大学で出会う洋菓子「帆風亭」のパティシエ

Ds. ナツキ

帆風（ホカゼ）ナツキ

（ナツキ）

PROFILE

所属バンド	アイスマウンテン ドラム担当
性別	男性
年齢	22
誕生日	3月3日
身長	自称 160cm
体重	47kg
靴サイズ	23.5cm

愛用の楽器（ドラム）

ライブハウスのドラムを使い、スネアとキックペダル、スティックだけを持って行くスタイル。スネアドラム：Pearl / CS1450、キックペダル：Pearl/ P-3002D スティック：Pearl/ 106H。

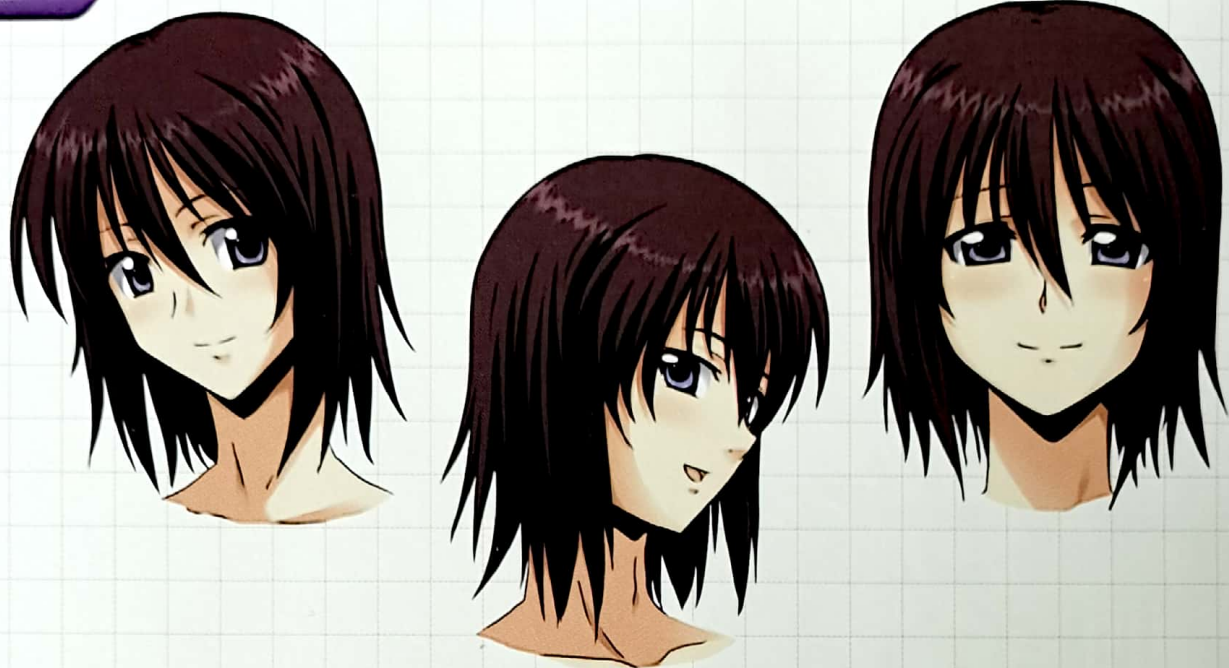
パティシエ｜帆風ナツキ

洋菓子店「帆風亭」でパティシエを務めている。一見女性と見間違えるような可愛い外見がコンプレックス。大学に入るまで友達と呼べる存在はいなかった。初めての親友が氷山キヨテルであり、初めての悪友が火山アキトである。

PROFILE

性格	●無口で大人しくて真面目だが、一度キレると怖い。誰よりも負けず嫌い。 ●何事にも熱中するタイプ。やり始めたらとことん極めないと気がすまない。 ●メンバーの中では、キヨテルのことを一番信頼している。 ●女性に間違えられると、一瞬でキレる。 ●本当はファンシーな物に弱い。 ●常に男らしさにこだわる。
趣味	試作品のケーキやお菓子をキヨテルに味見してもらうこと

FAMILY

祖母	帆風千代
父	帆風正行
母	帆風春子
姉	帆風菜都美

「幼少時代」

■両親が女の子の洋服を着せ、女の子として育てていたため、自分を女の子だと思っていた。

■両親の仕事が忙しく、祖母に預けられていたため、幼稚園には通っていなかった。そのため友達がおらず、自分が女の子であることを疑わずに育った。

■ぬいぐるみや人形を相手に１人で遊ぶことが多かった。

「小学校時代」鉢形城北小学校

■女の子のような可愛い容姿と、男女共に使われる「ナツキ」という名前から、担任が女の子だと勘違いをし、入学式は女の子の列に並んでいた。

■自分の性別を意識するようになり、男らしく振る舞うようになった。

■女の子のような容姿を、からかわれることが多く、ケンカを繰り返しているうちに強くなった。

■身長を伸ばすため、毎日牛乳を飲み始める。

「中学時代」鉢形城北中学校

■祖母の洋菓子店を手伝うようになった。店番から下ごしらえまで覚え、趣味でお菓子作りもできるようになった。

■他の女生徒よりも可愛かったので彼女はできなかった。男女交際には興味がなかった。

「高校時代」鉢形城北高等学校

■ヒゲが生えてこないので悩んだ。結局、成人してもヒゲは生えなかった。

■変声期が来ないので悩んだ。結局、成人しても変声期は来なかった。

「大学時代」天翔音響大学

■男らしく彼女を作ろうと思った矢先、男（アキト）にナンパされ、一気にモチベーションが下がる。

■同じゼミで初めての友達（キヨテル）ができ、バンドにも誘われて感激する。

■アキトがメンバーにいたため、バンドの誘いを断ろうとするが、アキトの「約束を破るのは男らしくない」というセリフが決定打となり、正式に３人目のメンバーとなる。

■ベースかドラムをやってほしいとキヨテルから言われ、ドラムが一番男らしいと思い迷わず選ぶ。楽器は未経験だが真剣に取り組む。

「社会人時代」

■洋菓子店「帆風亭」でパティシエをしながら、アイスマウンテンの活動に参加している。

■売れ残りや、試作品のケーキをキヨテルの住む宿直室に差し入れている。

■枕元に、ぬいぐるみがあるため自分の部屋には絶対に他人を入れない。

■アルコールに弱く、酒を飲むと翌日は記憶が無くなる。どちらかというと絡み酒。

トウマは苦い過去の出来事により音楽活動から遠ざかっていた。アイスマウンテンの正式メンバーに加わり、再びベースを持つことになる。

キヨテルの良き相談相手
同じ小学校の先輩教員

B. トウマ

安土(アヅチ) トウマ

（トウマ）

PROFILE

所属バンド	アイスマウンテン ベース担当
性別	男性
年齢	25
誕生日	9月5日
身長	180cm
体重	65kg
靴サイズ	28cm

愛用の楽器（ベース）

従姉が使っていたベースを貰い受けてから、ずっと大切に使っている。機種は「Fender Japan PB62-DMC BLK」。色はトウマのイメージカラーにもなっている黒。入念な手入れのため新品のように輝いている。

教員　安土トウマ

鉢形城南小学校の教員。キヨテルの良き理解者であり相談役。理科室の実験道具でいれるコーヒーは味が絶品。酸味を抑えた苦み重視のブレンドコーヒーが好み。

PROFILE

性格	●頼りになるアニキのような存在。しかし、無精ひげをそのままにしたり、ネクタイをゆるめたりするだらしない面もある。 ●アイスマウンテンのリーダーはアキトだが、意見をまとめるのはトウマであることが多い。 ●メンバーの中では精神的に一番大人。 ●若い連中が熱くなっているのを微笑ましく見守る一面がある。 ●洗濯は好きなので清潔だが、どうせ汚れるのだからと白衣のシミやシワは気にしない。
趣味	タバコとコーヒー

FAMILY

父	安土信秀
母	安土 花
従姉	小谷市子

「幼少時代」

■病気がちで背も低く痩せていたため、いじめられっ子だった。

■小学校を卒業したときの身長は１５５ｃｍ。

「中学時代」

■反抗期。ケンカばかりの日々をおくる。

■高校生の従姉（ベーシスト）のライブを見て、自分もベースをやってみたいと思う。

■不良仲間とは縁を切り、従姉に頼んでベースを習い始める。

■休日は、従姉の家で過ごすことが多くなる。

■急激に身長が伸び始める。卒業したときの身長は１７８ｃｍ。

「高校時代」

■入学祝いに従姉の愛用するベースをもらう。

■ベースの練習ばかりの日々を過ごす。

■人気アマチュアバンドに誘われるようになるが、トラブルを起こしては脱退を繰り返す。

■卒業する頃には身長が１８０ｃｍになる。

「大学時代」

■「あんたってさ、意外に教師とか向いてるかもよ？」という、なにげない従姉のひと言で教員免許を取る。

「社会人時代」

■鉢形城南小学校の教員になる。

■教員に採用された日に、従姉が結婚することを知らされる。ショックを受け、ベースが弾けなくなる。

■「パークサイドみなみ」というアパートに一人で住んでいる。

■理科室を私物化してタバコを吸っている。

■従姉にもらった思い出のベースには誰にも触らせない。

■キヨテルたちにバンドに誘われたが、一度は断っている。

■熱いコーヒーをいれて、キヨテルが「熱っ！」とする仕草を密かな楽しみにしている。

キーボード担当のハルト。絶対音感の持ち主で一度聴いた曲は楽譜を見なくても演奏することができる天才ミュージシャン。楽器はひととおり何でもこなせる。

キヨテルの先輩教員
トウマとは同僚というより友達

Key. ハルト

天音(アマネ)ハルト

(ハルト)

PROFILE

所属バンド	アイスマウンテン キーボード担当
性別	男性
年齢	25
誕生日	12月25日
身長	188cm
体重	68kg
靴サイズ	27.5cm

愛用の楽器（キーボード）

基本的に楽曲に合わせて組み合わせを変更するが、彼の一番のお気に入りは「Roland RD-700NX」+「YAMAHA MOTIF XS」+「KURZWEIL PC361」の組み合わせとなっている。

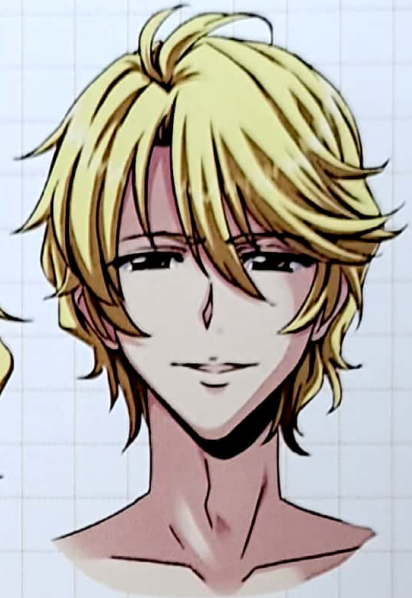
教員　天音ハルト

鉢形城南小学校の教員。見た目や立ち居振る舞いから児童達から「王子」と呼ばれている。毎朝、薔薇を一輪持参し、自分が奏でるピアノの音を聞かせながら美しく咲かせるのが日課である。

PROFILE

性格	●自分の価値基準だけで生きているある意味で別次元の存在。 ●超天然の母親の性格を受け継いでいる。 ●美しいものが好き。 ●常にマイペース。 ●あまり物事に熱くならないので冷たいと思われがちだが、心の中は温かい。 ●争いごとが大嫌い。 ●口数は少ないが常に多くのことを考えているので、児童に対して的確な指導を行う。
趣味	ピアノ 園芸 音楽鑑賞 芸術鑑賞

FAMILY

祖父	天音今蔵
父	天音善幸
母	天音 愛
妹	天音優理

「幼少時代」

■日本人の両親の間に産まれながらも、完全な「金髪」で産まれる。DNA鑑定で間違いなく両親から産まれたことが証明されている。

■祖父は世界的な財閥の当主。

「小学校～大学時代」

■ギフテッド（先天的な天才）と判定される。

■アメリカへ渡って英才教育を受ける。

■大学卒業と同時に帰国。

「社会人時代」

■鉢形城南小学校の教員になる。６年２組を受け持ちながら他のクラスでも音楽の授業を担当している。

■音楽室の責任者をしている。自分で購入した高価なピアノを置いている。

■小学校には、特注の白いリムジンで通っている。

■児童の母親に絶大な人気がある。

■思ったことを素直に口にするが、まったく悪気はない。

■ナツキの容姿を神が創りたもうた「美」であると思っている。

■小学校に莫大な寄付をしているらしく、どんな無茶なことをしても問題にならない。

■草木や動物と心をかよわせる力がある。

■ほとんどの人間を性格だけでなく、その人の本質まで直感で見抜く鋭い勘のような能力を生まれながらにして持っている。アイスマウンテンに加わる気になったのは、いまだに本質を見抜くことが出来ないキヨテルが気になっているからだ。

■祖父は天音家の跡継ぎであるハルトが教師をやっていることに反対をしている。

■母親は優しく、世界的に有名なピアニストだが、超天然で何事にも動じない。ピアノの才能と超天然なところは母親の影響を強く受けている。

■母親を最高の女性だと、純粋な思いで尊敬している。

■若い頃の母親にそっくりな、年の離れた高校１年生の妹がいる。ハルトと違って長いストレートの美しい黒髪。美少女で、すっごいブラコン。ハルトのことを「お兄様」と呼び、タロット占いが趣味。兄が家に招いた友人を片っ端からタロットで占うのが大好きで、初めて家に来たキヨテルを占った時、青ざめた顔で占いを中断する。

2011年初冬刊行予定！

氷山キヨテルが活躍する
ストーリーを
ちょっとだけ公開！

ICE MOUNTAIN Short Story

ロック先生誕生！

猫王子著　櫻井靖之原案

プロローグ

「初めまして、アイスマウンテンです。曲は……」

握りしめたマイクに向かって氷山キヨテルが叫んだ次の瞬間、鼓膜を劈くほどの打撃音が野外ステージに鳴り響いた。

一見しただけでは美少女と見紛うばかりの帆風ナツキが、その小柄な体つきからは到底信じられない勢いで、両手に握ったスティックを力いっぱいドラムに叩き付けたからだ。

その衝撃的なドラムの音を追いかけるように、百八十センチ近い長身の火山アキトが、ステージの上で飛び跳ねながらギターの弦を勢いにまかせてかき鳴らす。

——音なんかいくら外してもかまわねえ。思いっ切りパワフルにやろうぜ。ロックなんか楽しけりゃそれでいいんだからさ！

ステージに上がる直前、バンドのリーダーであるアキトが言った言葉をキヨテルは思い出す。

この、「BPM250」というスピード感あふれる曲は、今日の学祭で演奏するために三人で作り出したものだった。とはいえ、まだ素人同然の三人が、今日のステージを完璧にやりきれるとはキヨテルたちも考えてはいない。

アキトは小学生の頃からギターをいじってるくせに、いまだに譜面を読むのがにがてだし、さらにナツキに至ってはドラムを始めて

からたったの数ヶ月という初心者だ。
だがそんなことは、彼らにとってはどうでもいいことだった。
——演奏の腕なんか二の次、三の次。
この学祭でやると決めてからの数ヶ月間、三人は寝食を忘れて練習に没頭した。その力を、全てここで出し切るだけだ。
——音楽は楽しければそれでいい。
キヨテルは自分たちの作った曲に生命を吹き込むつもりで、思い切り声を張り上げてシャウトした。

☆☆☆

「まさかおまえがそこまで「学校大好き人間」だったとは、さすがのおれも想像していなかったぜ……」
今夜から小学校の「宿直室」で暮らすことになった——今日、教員になったばかりのキヨテルから電話でそう連絡を受けたアキトは、実家の八百屋の手伝いを途中で放り出し、大急ぎで自転車をかっ飛ばしてキヨテルの元へ駆けつけ、開口一番にそう呟いたのだった。
「この部屋、小学校に通うのにすっごく便利なんです。職員室がすぐ隣の部屋だなんて、どこの不動産屋で探してもこれほどの優良物件はありませんよ!」
嬉しそうに話すキヨテルに、アキトは思わず頭を抱えたくなる。
「そりゃ、小学校の宿直室にすき好んで住みたがる物好きな人間はいないからな……」
畳の上に何年分も積み重なった分厚い埃を、置きっぱなしになっていた古新聞で払いのけ、そこにアキトはあぐらをかいて座り込む。
「で、どういう経緯でこんなところに住むことになったんだ?」
「えっとですね。僕が部屋を探しているのを知って、校長先生が「条件付き」で貸してくれることになって……」
——条件付き?
「うわ。本当に宿直室に住んでるし」
その「条件」についてアキトが詳しく訊ねようとしたとき、換気のために開け放たれていた扉の前で棒立ちしているナツキの声に二人は振り返った。
「遅かったじゃないか。おれなんか五分で駆けつけたぞ」
「アキトの家とは距離が違うんだってば」
ナツキの家はアキトの家と違ってこの小学校とは駅を越えて反対側に位置した場所にある。そのせいでナツキだけは学区が違っていて、ナツキがキヨテルたちに出会ったのは大学に進学した後だった。
「キヨテル、これ引越祝い。店の売れ残りのケーキだけど、よかったら食べてよ」
「うわあ、ありがとうございますナツキさん! ナツキさんの作るケーキ、僕、大好きなんです」
「そ、そう? じゃあ、また持ってこようかな……」
照れを誤魔化すようにそっぽを向きながら、ナツキは頭を掻いた。
ナツキはれっきとした男性ではあるが、外見が美少女風なので、

アキトからすると、キヨテルに手作りのケーキを差し入れに来た女の子にしか見えない。そのことをからかうと『女顔』に異常なまでにコンプレックスを持っているナツキに烈火のごとく怒られるので、アキトは今思った言葉を慌てて飲み込んだ。昨日もナツキとコンビニで雑誌を立ち読みしていたときに、「このグラビアアイドル、ナツキにそっくり」と思わず口を滑らせてしまったばかりなのだ。

「ナツキ、おれの分のケーキは？」

「そんなのあるわけない」

「…………」

ナツキは畳に座っているアキトを石化してしまいそうなほど冷ややかな視線で見下ろしながら、キヨテルの隣に座った。

どうやらナツキは、まだ昨日の件を根に持っているらしい。

だが、それくらいのことでは全くといっていいほどめげないのがアキトの長所でもあり短所でもあった。大学一年の時に起きた事件のことを思えば、今日のナツキの態度はまだずっと穏やかな方だ。あのときのことを思い出すと、今でもアキトは背筋が寒くなる。

「さっきさ……キヨテル、なにか言いかけてなかった？　校長先生が条件付きでどうとか……」

ケーキを美味しそうに頬張っているキヨテルの横顔を見つめながらナツキは訊ねた。

ナツキにとって、自分の作ったケーキを嬉しそうに食べるキヨテルの顔を見るのは密かな楽しみだ。

「ああ、その話はですね……学校で『新しい校歌』を作ることになったので、そのお手伝いをすることになったんです」

「新しい校歌？」

「キヨテル、作曲なんかできんのかよ？」

アキトも思わず身を乗り出して問いかけた。今まで何年もバンド活動をしていて、キヨテルが一人で曲を作れた例しがない。大学の学祭の野外ステージでオリジナル曲を演奏したときも、曲に関してはほとんどアキトとナツキで完成させたようなものだ。キヨテルが作ると、どうしても幼稚園かなにかの『おゆうぎ』で使うような、ほのぼのとした曲になってしまう。

「やっぱり難しいでしょうか？」

「い、いや、校歌ならロックとは違うし、キヨテルにもできるんじゃないかな？　それに、学校の校歌を先生が作るなんて楽しそうだし」

難色を示すアキトに代わってナツキがフォローする。

「そ、そうですよね。僕もぜひやってみたいと思っているんです。それに、トウマ先生とハルト先生も手伝って下さることになっていますし、三人で力を合わせればなんとかなるのではないかと……あ、トウマ先生というのは理科の先生で、ハルト先生は音楽の先生なんですよ」

「……ふうん。音楽教師がいるなら、まあ、なんとかなるかもな」

アキトは少し考え、頭からできないと決めつけるのはやめることにした。ナツキの言う通り、校歌はロックとは違う。それならば、

キヨテルの自由にやらせた方が、面白い校歌が完成するかもしれない。

「それで、校長先生が新しい校歌はロック調にしてほしいって言うんですよ」

ケーキを頬張りながら、いかにも幸せそうな表情でキヨテルは言う。

「結局、ロックかよ!」

アキトは思わず畳を握りこぶしで叩いてしまい、埃が宙を舞った。ナツキが嫌そうな顔をして立ち上がり、窓を全開に開けて換気する。

「まあ、なんにせよ……まず最初にやるべきことは、この部屋の掃除かもな。おれ、職員室から雑巾借りてくるわ」

そう言ってアキトも腰を上げた。

☆☆☆

結局、夜中まで三人で宿直室を掃除してから、アキトとナツキは帰宅した。ケーキ屋のナツキと八百屋のアキトは、キヨテルよりもずっと朝が早い。それでも嫌な顔ひとつせずにキヨテルのために時間を割いてくれたのは、二人ともキヨテルのことを大切な存在だと思っているからに他ならない。

「アキト君、ナツキさん。僕、がんばります!」

二人の親友の期待に応えなければと、キヨテルはひとり、ガッツポーズをして気合いを入れ直す。今日は始業式だけだったので特に問題はなかったが、明日からはいよいよ本番だ。キヨテルはその場で立ったまま目を瞑り、教壇に立って生徒たちに勉強を教えている自分の姿をイメージしてみた。

教育実習のときは、説明が丁寧すぎて授業時間が足りなくなることが何度かあった。その点は改善するようにと学年主任の先生にも注意されているが、もともとおっとりした性格のキヨテルには、どうすれば要領よく教えられるようになるのかまだよくわからない。時間通りに教えようとすると、どうしても急ぎ足になってしまう。やはり、経験がものをいうのだろうか?

そんなことを考えてなんとなく心配な気分になってきたとき、キヨテルの携帯電話からメールの着信音が立て続けに二度鳴り響いた。

「キヨテル、フォースを信じろ」

「明日もケーキ、持っていくから」

アキトとナツキからのメールだった。

二人のメールを読んだ瞬間、キヨテルの沈みかけていた気分は、もうどこにもなくなっていた。

絵師さんと競演！
キヨテルイラストギャラリー

氷山キヨテルの素敵なイラストを見つけたので掲載させていただきました！　本誌で設定が公開されたアイスマウンテンのメンバーも、一緒に活躍させていただければ幸いです。

title：先生
name：luco さん
comment：大人なキヨテルもいいですね

title：廃日
name：藤代叶さん
comment：戦っている男ってカッコイイですよね

title：アレな目線でぼかろ先生＋描いてみた。。
name：らくがきさん
comment：眩しいぐらいイケメンです！

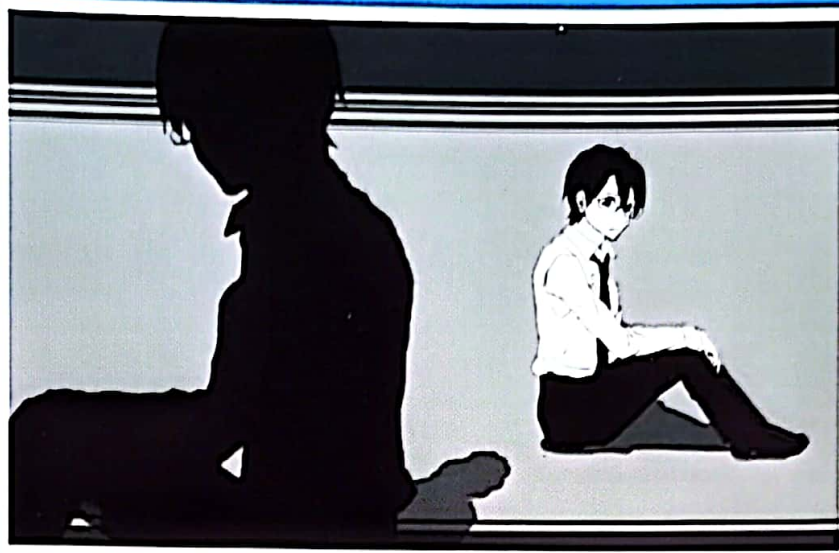
title：キヨテル
name：保篠さん
comment：キヨテル先生は悲しそうな感じも素敵

title：アイスマウンテン
name：藤代叶さん
comment：その目で見られたら恋に落ちますよね

title：蝶
name：保篠さん
comment：漂う優しさとセクシーなオーラ

title：誕生日おめでとう！！
name：あまかさん
comment：このキヨテルさん凄くセクシーですね！

title：ＴＥＲＵ降臨！！
name：acuzis さん
comment：赤い目のテルもイケテル！

title：木枯らしに吹かれるキヨテル
name：毛 (mo) さん
comment：このキヨテルさん綺麗ですね

title：ぼくの　なかの　あな
name：お池さん
comment：意味深な構図ですね。深い！

title：裏@表
name：ぁさぎさん
comment：どちらのキヨテルがお好きですか？

title：GV
name：ぁさぎさん
comment：この裏表パターンもドキドキしますね

title：きよてるん
name：蒼天さん
comment：ササっと描かれたそうですが上手い！

title：幽愁
name：囲炉裏庵さん
comment：予知！？　キヨテルは教会育ちです

title：アイスマウンテン・テル爆誕
name：きら太さん
comment：まさに爆誕って感じ

title：月見酒
name：あまかさん
comment：イノシカテル！
花札に混ぜたいです

title：新年明けまして
おめでとう御座います
name：おちゅんさん
comment：セクシーな目線！

title：先生とユキちゃん
name：luco さん
comment：生徒にタジタジの先生も可愛い

title：かかってこいよ、
ＰＴＡ！
name：dief さん
comment：ＰＴＡもざわざわするカッコよさ！

title：夏へ
name：お池さん
comment：ネクタイを緩める瞬間が最高！

title：半々
name：火弐さん
comment：背景もキヨテルもクオリティが高い！

ボカロプラス Vol.0 ICE MOUNTAIN

アイスマウンテン制作委員会
株式会社徳間メディアプラス
〒105-8055
港区芝大門2-2-1
TEL:03-5403-4385

設定イラスト：梅谷阿太郎
協力：株式会社 AHS
デザイン：株式会社渋沢企画
印刷：凸版印刷株式会社
発行日：2011年 8月12日